# 婦人と新社會

山田わか主筆

## 九月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和二年八月二十三日印刷納本

國家と家庭

夏と家庭

御同情厚き愛讀者諸士に答へて

悲しき神經衰弱病患者

昭和二年九月一日　第九十號　（每月一回一日發行）

東京　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 國家と家庭

家庭と國家の必然な關係に付て私は長い間論議してまいりましたが、實に、家庭は國家の要石であります。社會の進歩及び幸福は一つにかゝつて家庭に據るものです。

勿論、家庭にも國家にも同じ缺點と同じ望みとがあります。そして、それ等の缺點及び望みが國家的になると一層烈しいものになります。なぜなら、それ等の缺點及び望みは一人二人のものゝ代りに何千何萬の經驗の堆積でありますから。

そして、國家に於けるそれ等の問題は到底處置しかれるように思へる程厄介なものに思へます。けれども、國民の各家庭にさかのぼつて、それ等の困難の根源を探索すれば、國防、租税、又は、國際相互依屬　云ふような大きな問題さへも消滅してしまいます。

外部からのいろ〳〵な影響が着々と家庭内に侵入しつゝあるにも拘らず、家庭は、やはり、個人並びに社會の生命に於て依然と最も重要な要素です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 夏と家庭

春夏秋冬、氣候に著しい差のないサンフランシスコに住んでゐる時分には、衣服調度が一年中同じもので差支へありませんでした。

金持ちの婦人達こそ、春になれば春らしい、夏になれば夏らしい服装をするのですが、つまり趣味の上から服装に變化を加へるのですが、併し、暑さ寒さをしのぐためのみの服装はいつも同じでいゝのです。

強いて變つた點を云へば、冬になれば外出の時、外套を着るが夏はそれをしまつて置く位の處です。

さう云ふ簡易な生活に暫く慣れてから日本へ歸つた當時、私はいろ〳〵の種類の衣服が必要であることが本當にめんどうだと思ひました、夏と冬とでは一切が別でなければならないのみならず、合着さへも必要だと云ふことは、その負擔も大變だと思ひました。

『何と云ふ複雜な生活でせう』と私が云ふと我が日本の生活を靜かに味はつてゐる、友人が『併し春夏秋冬少しも變化のない生活は無趣味ですよ。雪にとざゝれ、一切のものがちゞみ上がつてゐる、が、やがて梅がチラホラほころび始める、春らしい氣候になる、桃の花が咲く、と云ふ氣分は日本でなくては味はれない、そして、これは嚴寒があればこそです。』と申しましたので、私は『成程』とうなづきました。秋の爽快な氣分は酷暑の後だからです、こう云ふ意味で、私は其の時々の氣候を喜んで迎へ、その





Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時々の特色を腹一杯味はふことに常に心がけて居ります。

嚴寒のつらさを思ふ時は、早く夏が來ればいゝと希ひ、酷暑が苦しいと思ふ時には、早く冬が來ればいゝと人は云ひます。

けれども、冬も夏も突然には來ない。それは徐々であると云ふことは、自然が人間に與へた惠みのうちの大きな一ッであると云ふ例を私の夫はよく話します。彼がアメリカ大陸を旅行して、ヨセミテに着きましたのは、春も過ぎた初夏の候、五月の末でありました。雄大、壯麗な夏景色を充分樂しんでホテルに落付き、就寢する頃には空がドンヨリ曇つてゐたそうです。

處が、夜がふけるに從つてだん／＼寒くなつて來た。そして朝起きて見ると、意外にも戸外には雪が一尺以上も積つて、全然冬景色に變つてゐたと云ふのです。たつた一晩の滯在で、世



界に名高いヨセミテヴアレーの夏景色と冬景色と兩方を見ることができたのは幸はせだつたと云へば幸はせだが、併し、その不便且つ不愉快は言葉に盡せないと申ます。なぜなら、旅裝に勿論夏仕度でありますから、防寒用のものが何にもないばかりでなく、暑い氣候に慣れた體は急變の寒さには何とも云へない心地の惡いものだつたと云ふのです。

氣候が不順な頃には、隨分寒かつたり暑かつたりすることがあるとは云へ、冬と夏の間には春があり、秋が置かれてあつて、大體に於ては徐々と暑くなり、寒くなることは實に天惠であると云ふ結論に到着してゐる次第です。

その時々の氣候を喜んで迎へ、その時々の特色を腹一杯味はふことに、私は心がけてゐると前に申しましたが、併し、それは今の一般の都會人が夏期を享樂に費そうとしてゐるようなこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を意味するのではありません。暑いからと怠けたりぐちを云つたりすることの代りに、又は、暑さと戰ふと云ふ態度である代りに、私共人類の糧を實らせるための暑さ、爽快な秋を迎へるための準備としての暑さと云ふ風に考へて、そして暑さにめげない心の態度を固くして、大いに働こう、そして、樂しまうと云ふ意味なのです。幼老病弱者は別として、壯健な青壯年者が都會は暑いからと云つて、海に山に暑を避けると云ふことは、都會に働く勞働者に對し、農村に働く農業者に對し、申しわけのないことだと私は考へてゐます。

比較的餘裕のある中流階級以上の人々が、それ〴〵の分を盡して共存共榮のために働かうとはせず、土と汗にまみれて働いてゐる人々に一片の同情もよせようとはせず、享樂の日を送ることは自己の特權でゞもあるように考へてゐることは、國民思想の上に重大なる惡影響を及ぼすことを忘れてはならないと思ひます。涼しい海へ、山へ、行きたくても行けない人々が、都會には充滿してゐるのに、『行け！海へ、山へ』などゝ大きな活字で新聞紙上を埋めることなどは大いに宜しくないことを新聞業者に考へて頂かなければなりません。

少青年の運動競技に私は決して反對を稱へようとするものではありません、けれども働く精力をいくばくも殘してゐない老勞働者が、一ケ月の中に一日の休養を樂しむこともできず、疲れ果てた體をやうやく電車の中へ運んで、喘いでゐる、そこへ、二十歳前後の血氣盛んな青年達が、運動服にボールを抱へて飛びこんで來て老勞働者などは目にも入らぬように、精力のやり場に困つたように大言壯語してゐる。

「この老勞働者と、青年達とは階級を異にす

る」と云ふ蠻勇氣を今頃持つてゐる人がありますか？ あつたら御目にかゝりたいと思ひます。

我が國は、支那のようにのつ廣い統一の難かしい國とは違ひます。面積狹く統一の易い一大家族的生活と云ふのが、我が國の特色です。けれども、家族員のうちに、饑餓と疲勞に喘いでゐる者があることに無關心で、自己の享樂に耽つてゐることは、非人道的であり、我が國の特色の破壞です。

私がこう申ましても「それもさうだね、では避暑に行くことを止めよう」などゝ云ふ特志家が一人でもあるとは私は思ひません。海か山へ行くことを誇りのように、又は特權のように考へてゐる人々に反省して頂く位ひの役には立つであらうと考へて居ります。

暑いと云つても、やかれはしない。寒いと云つても凍へはしない、溫和な氣候を惠まれてゐる私共日本國に住む者は、華やかな夏の日を喜び、勤勉に働き、そして、爽快な秋を迎へる準備をしたいと思ひます。

## 御同情厚き愛讀者諸士に答へて

「樂あれば苦ある」と云ふ諺が我が國にはありますし、西洋にも「苦と樂は楯の兩面である」と云ふ言葉がありますが、これは人生の妙味を云ひ盡して餘まりあると思ひます。

この度森吉氏が難病のために打ち倒されたことは私共の一生中の最大不幸事であるに相違ありませんが、同時に、この病氣のために近親及び友人から、又は、まだ御目にもかゝつたことのない私の筆を通しての友

人から嘉吉氏並びに私にお寄せ下さつた御同情は病氣の苦しみを差し引いて餘まりあることを私は今痛感して居ります。

「どんなにおいしいものよりも私を喜ばせて呉れたのは多くの方達の御同情だつた。又、どんな名醫の藥よりも私に希望と活氣をつけて呉れたのは「キットなほしてやる」と云ふ自信ある且つ誠意ある言葉を與へられたことだ」と本人も云つて居ります。

で、治療して下さいます方達の御親切なる御丹誠により——まだ立つことは出來ないとは云へ——おしりをずつて部屋のうちを自由に動きまわるようになつた今日「私の病氣の經過をスッカリ書いて九月號に載せて、そして、それを御同情下さつた方達全部に御送りして呉れ」と云ふ本人の希望によりまして、七月號と八月號に書いたもの及び婦女界から頼まれて御送りした原稿などゝも重複致しますが、とにかく「病氣の記念としてまとめて置いて呉れ」と云ふ本人の希望で御座いますから、さうすることに致しました。

○

幼少の頃から學問に志を立て、醫書を主として生活してゐた私の夫と私が知り合ひになつた時には彼はもう四十歳を近くしてゐました。

あらゆる方面の知識を或る程度まで所有してゐた彼の目には、私は知力的には全然赤ん坊でありました。彼は私を全く赤ん坊扱ひに致しました。私も赤ん坊になり切つてゐました。

人の世の荒浪に押し流され、暴風雨にさらされたあげくに悲しみ深き父の懐に歸つ　と云ふ氣持ちであつたのです。

知力的の赤ん坊はいつの間にか肉體的の赤ん坊にされてしまいました。

私の夫は、私には一人旅行などは出來ないものゝように極めてしまつてゐて私を一人では決して出して呉れません。「大きな赤ん坊ね」と——私が人一倍大きいので——平塚さんや市川さんやその他の方達に始終笑はれてゐる次第です。

○

どなたでも御經驗なさいますように、子供が小さい

うちは『もし、私が死んだらこの子供達は！』と云ふのが最大恐怖でありますが、私もツイ此の頃までは主もに子供に對してさう云ふ恐怖を持つてゐました。けれども、子供が皆大きくなつた此の頃ではさう云ふ恐怖を夫に對して私は終始持つやうになりました。

　私が死にさうになつた時の夫の心勞、又は、私が死んだ後の夫の淋しさを思ふと私は夫が氣の毒で居ても立つてもゐられない。そして、何とかしてさう云ふ思ひをさせないですむ工夫はないかしらと考へた結果、私は、私が生き殘るに如くはないと云ふ結論に到着致しました。

　生涯を共にしようとする良人であるばかりでなく、親であり、師である人に死なれた時の自分の姿は、まるで、水を離れた魚のようであらうと相像して戰慄を覺へながらも、併し、夫を苦しめたくないと希ふ愛情のためには、止むを得ないことだと私は考へてゐました。

　で、かれてから自分より先きに夫が死ぬことを希望してゐながらも、今度、夫が突然腦溢血を起した時には『日頃希望してゐたことだとは云へ、その時があまりに早く來てしまつた』と私は驚愕しました。

〇

　もし、私に腦溢血に付ての知識がたとへ僅かでもあつたなら、いよ〳〵其の瞬間に到着する前に何とか其の豫防法があつたらうと今にして考へて居ります。

　腦溢血を起す一週間位前からだつたと思ひます。夫の頬からゑり首がどす黒くなつてゐました。又、それよりズツト以前から時々ロレツがもつれるようなことがありました。けれども、それが恐ろしいことになる前兆だなどゝは露程も氣付かず、隨分變に日にやけた――その頃よく屋外に出てゐましたので――のれと云つてゐました。

　いよ〳〵口が少しゆがんで唾が一滴下唇の上にたまつてゐても其れが氣にならない程神經が痲痺して來てゐるのに、云ひかへれば、病魔の指の先きが夫の頭に觸れて來てゐるのに、まだ、本人始め私もそれとは氣が付かない。

　『あなたは變な口つきをして ゐるじや ありません

か？」

「ウン、首ぐきが何だか少し變だ！」

「はれてゐますの？」

「さうでもないようだが」と云つて、隣室に行つたかと思ふと、夫の近くにゐた娘が私を呼ぶので行つて見ると、夫はどたりと椅子によりかゝつて「こ、こんなになつちやつた」と、もつれる舌でやうやく云ふのでしたが、どす黒かつた額はいよ〳〵どす黒くなつてゐました。驚いて、取りあへず水を飮ませて見ようとしましたが、含ませようとする水を吸ひ込む力はもう失つてゐました。

ドシンと胸を打たれたように驚愕しながらも「藥卷に醉つたのであらう、すぐ、回復するだらう」と云ふ考へも心の一隅に働いてゐました。馳せつけた醫者が「腦溢血」と診斷しても私はさうと信じることが出來ないでゐました。けれども、この病氣に特に委しいと云はれてゐるもう一人の醫者が來て、着てゐたシャツを鋏で切りぬがせて、丁寧に立ち合ひ診察をして、やはり、さうだと斷定した時に、私は始めて夫が恐ろしい病氣におそはれたのだと云ふことを納得し、且つ、如何に自分が無知であるかと云ふことを今更のように呆れないわけには行きませんでした。

○

「生命をとりとめる見込みは四分六分で、もし、幸ひに生命を取りとめることが出來たとしても半身不隨は止むを得ない」と云ふのが二人の醫者の一致した處でした。

氷枕と氷のう三ッとで頭を圍つて、絕對安靜を必要とすると云ひ渡されたゞけで「外に治療法は何にもありません」と云はれた時の心細さ。私共夫婦が奈落の底に突き落されたと云ふ心地が私は致しました。

醫術があまりにも進步してゐないことに、醫學のだらしなさに私は腹立たしさゝへ感じるのでしたが、同時に、自分の半身なる夫の、又は自分の身の上に突發するかも知れない病氣と云ふことに付て、又、醫術はそんなものだと云ふことに付ても全然知らずにゐた自分の無知を限りなく恥かしく思ひました。

とにかく、醫者がさう云ふから仕方がないと云つて



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は唯安閑として、なかば無意識で、生死の境を往來する夫を見守つてゐることに耐へられませんでした。囚はれの身となつた夫を病魔の手から私はどうしても救ひ出さればならぬとあせりました。けれどもほどこす術のないことに切歯しつゝ、胸を噛まれるような時を過すこと半日でした。

　そこへ、夫の實弟が紹介して來たのは、「無痛安產法」の新發見者、「體質匡正法」の創始者渡邊祐五郎氏でありました。――これは七月號に一寸書いて置いたことです――「按摩でもなく、醫者でもないが指先きで病氣を治し、罰金刑に不服の裁判」と云ふみだしで時事新報六月三日夕刊及び其の他の新聞に出てゐた其の人です。

　兩手の指頭及び肘をもつて力一杯急所々々を壓迫して淋巴腺の淋巴液を押し流し血液の循環を計り、病毒を除去すると云ふ療法です。そして、この方の意見は「腦溢血は不治の病氣ではない。起つた瞬間に死んでしまつたのでは仕方がないが――さうなる前に豫防法はある――生命を保つてゐる以上、その生命は取りとめ得るばかりでなく、半身不隨も治すことができる」と云ふのです。

○

　この治療を受けていゝかどうか、私は早速醫師に相談して見ました。處が醫師の立場からは「絶對安靜を必要とする重病人の體を揉むなどゝはとんでもないこと、病人の體を動かしたが最後取りかへしのつかないことになつてしまう」と云ふ主張で大反對をされました。

　併し、私は考へました。普通の醫者の云ふことは私に少しも滿足を與へて吳れない。幸ひに生命を取りとめても一生涯半身不隨の不自由な生活は何としても氣の毒で　る。だが、もし、醫者の云ふ處が本當で、この新治療を受けて誤まつたら！　トッオイッ私は一晩中考へてゐました。

　醫者の云ふ通りにしてゐて、最上の結果がたゞ生きてゐるだけで半身不隨であるよりも、もしあやまつて生命を失つても、もとの體に回復する見込みがあると云ふ療法を施さないのは病人に對して忠實でないと云



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ風に私は考へて來ました。もし、私の判斷があやまつてゐて生命を失ふようなことがあつても、夫は私の誠意に免じて許して呉れるに相違ないし、又、さうなつた場合に最も苦しむのは自分であるからとも考へました。

　私の心がその新治療法を受けるように傾いて來たのを知つて、醫者は私の血族を說きました。私に意見をするように。その血族は顏の色を變へて、私が判斷を誤まつてゐるように極力忠告して呉れました。けれども、私は『夫の生命は私にとつて最も大切であるから私が最上と思ふ方法をとらして呉れ』と云つて其の忠告をいれませんでした。

　そして、夫の生命と今後の自分の運命とを賭けて私はその新治療を施して頂きました。普通の醫者の云ふことが本當なら渡邊氏の手が患者の頭にかゝるや否や患者は再び烈しい溢血をして其のまゝになつてしまうであらうと云ふ疑惑に心をふるはせながら私は患者の顏から一分間も目を離さずにゐました。

が、結果は良好でした。普通の醫者は一寸でも動かしては危險だと云ふ重態な病人を渡邊氏は頭ばかりではなく全身を大の男の力のあるかぎり一時間餘に亘つて揉んで揉んで揉みこくるのですが、この療法は益はあつても害はないと云ふ證據は、病人の顏色が證明します。それ迄は顏から足りにかけてどす黑くゥッ血してゐたのが、まるで拭ひてとつたように白くなりました。

　私は胸をなで下しました。そして、醫者の消極的な態度とは反對に、渡邊氏の力限り根限り病人の體內に停滯する病毒を押し流し除去しようとなさる精力と誠意とに少なからず滿足を覺へました。病人に對する普通の醫者の態度の手ぬるさに憤慨さへ感じてゐる時でしたので、渡邊氏の療法が一層嬉しう御座いました。病人は本復するであらうと云ふ信仰をやうやく持つことができるようになりました。

　『一般に今日の醫者が信じてゐる絕對安靜といふことは患者にとつては最も不安靜なものだ。安靜な位置は患者自身が最もよく知つてゐる』といはれる渡邊氏の御言葉は至言だと思ひます。又『今迄の醫學は死體





Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の解剖が基礎であるから生きた體の本當の處は分つてゐない。私は生きた體を研究して淋巴液の運動を發見し、この運動を人工的に活潑にすることによつてあらゆる病氣を除去する」と渡邊氏は申されます。

○

　この方に、一週二度乃至三度治療して頂いてゐろうちに、はつきり明けなかつた目がパッチリと開き、意識が益々明瞭になり、言語も徐々と了解し易くなり、醫者を驚かすばかりでありました。

　この治療の功能はもはや疑ふ餘地はありません。が唯、一ツ困つたことはこの治療法は非常に患者を痛がらせることです。

　勿論、私の專斷で病人の意向などはたづねもせず――考へさせたり判斷させたりすることは病人の頭のためによくないと思つたものですから――施して頂いてゐたのですが、病人もだまつて治療を受けてゐたのですが、麻痺してゐた神經が徐々に生きかへつて來るに從つて、病人の苦痛は益々烈しくなつてまゐりました。目の色を變へ油汗を流して不自由な體でもだへ苦しむ



有樣は目もあてられません。私は病人の比較的自由のきく右の手を私の兩手でかたく握つてゐて

「いのちと取りかへつこですから我慢して下さい！」

と叫びつゞけてゐました。

　こう云ふ狀態が四週間續きました。意識はます〳〵明瞭になつてまいりますが、併し、左半身は依然と少しも動きません。そこへ、友人が他靈術を施す婦人――御本人の御希望で御姓名はわざと此處には書きません。理由は、もし御姓名が廣く世間に知られて治療の要求があつても、一人の體では北れに應じきれず却つて御氣の毒なことになるからと仰有います。――を紹介してまいりました。これは自靈術と同じ方法であるが自分では出來ないから他から施す、卽ち、他靈術であると云ふことです。

　この治療は主として兩手で腹部を揉みます。卽ち胃腸の位置をとゝのへ、働きを活潑にし、營養を充分に吸收させ、かくして、全身の機關の働きをたすけ、凡ての疾患を驅除すると云ふ方法です。

　不思議なものでして、この婦人に腹部を揉んで頂く

こと二回で、——失禮なお話ですが——それまでは灌腸をしなければ斷じて無かつた通じがやす〳〵と自然にありました。便通の困難を訴へる度毎に醫師も渡邊氏も「それはこの病氣の特徴で、腸も半分痲痺してゐるのだから止むを得ない」と云つて居られたのが自然にあるやうになつたのです。こうなりますと、氣分が輕くなると同時に、左の手足が少しも動かないとは云へ、やはり大變輕くなつてやがては動き出すような氣持ちになつた。渡邊氏の治療はもう嫌やだと云ひ出しました。止むを得ず暫く中止と云ふことに致しました。

○

發病以來三十五日目の晩でした。私共の亞米利加時代からの友人坂本龍樹氏が、主人の病氣のことを外から聞いて驚いたと云つて訪ねてまいりました。「發病した時知らして呉れゝば今頃はもう歩き出せるように僕がして上げてゐるのに」と私が通知しなかつたことに付て大不服でした。

この方は佛法を深く研究された結果、

「我々は宇宙に因りて造られたる小法體です。宇宙は我々を造つた大法體です。此の大法體の保護を受けなければ我々は一日たりとも生存する事は出來ないのです。宇宙間の森羅萬象は皆此の大法體に因りて造られ、亦保護を受けて生存してゐるのです。……併し宇宙の保護に因りて呼吸をさせて貰ふて居る事に氣付かずして己の獨立で生存し亦己の獨力で呼吸して生長したと思ふて居る。」

と云ひ、そして、あらゆる病氣の原因が此處に存すると云ふ主張の下に「坂本式自然法修養會」を創立し、「阿吽(アーウン)」の呼吸法の普及に努めて居られることはかねてから承知してゐましたが、併し、同氏が積極的に手を下して難病を治すと云ふことは知らなかつたものですから、私は同氏がどう云ふ方法で治療なさるか、又如何にして其の治療法を發見されたかをたづねました。

佛法のうちに「自他一如」即ち「他人の生命をもつて自己の生命をつぐ。又、自己の生命をもつて他人の生命をつぐ」とあるが、その實行方法が今迄發見されずにゐた。處が、私は、大宇宙の法則に順應した阿吽(アーウン)に精心してゐるうちに自分のからだから電氣が放射さ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れるのを感じ、あゝこれだな！　と翻然悟つた。健康體のしかも强度な自分のエネルギーを私の指先きを通して山田君の病體に注入してぢきに歩るけるようにして上げる、と云はれ以來一週に三回位ひづゝ、其の治療法を施して下さいます。

○

他靈術を施して下さいます御婦人が毎日々々腹部を揉んで胃腸の働きを活潑にして下さいます。そして、坂本氏が御自分のエネルギーを病人に注入して痲痺した神經の復活に努めて下さいます。

全く活動の止んだ、だらりと投げ出されてある、まるで一個の物塊のような感じの手と足が少しづゝ〱動いて參りました。始めは親指と人さし指が一生懸命見てゐなければ分らない程度に、ピク〱と動きました。次には五本の指が、その次には腕のつけ根、次には手首、それから肘と云ふ順序で。左の手足はまだ使ふと云ふ處までは進んで居りませんが、併し、膝に力がついてまいりましたので、右の手と足を使つておしりをずつて部屋のうちをあちこち動くようになつて居りますのです。



○

他靈術の御婦人は「腦溢血にかゝる時には必ず胃腸に故障がある。胃腸さへ健全であれば斷じてこの病氣は起らない。又、起つても、腦溢血ばかりでなく如何なる病氣でも胃腸の働きを活潑にして營養を充分吸收させることによつて必ず健康體にすることができる」と云ふ確信を持つてゐらつしやいます。

坂本氏の御說は「病氣になると云ふのはエネルギーの不足と不平均と云ふことだ。だから、他からエネルギーを補足してやりさへすればどんな病氣でも治る。癌腫などは不治とされてゐるが、併し、人體電氣を患部に注ぎさへすれば、自然に溶けて消滅してしまう」と云ふのです。

○

この文の始めに於て私は私の夫が私より先きに死ぬことを希望すると申ました。けれども、まだ、今、死なせたくはありません。死なしてはいけないのです。

けれども、夫の病體に手をかけて下さつた皆樣の御

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

親切と御盡力が無かつたならば私の夫を死の淵から、又は半身不隨の痛ましい運命から引き戻すことは出來なかつたに相違ありません。

私の師であり親であり人生行路の唯一の道連れである私の夫を再び私の手に戻して下さつた皆樣に私は伏して感謝してゐる次第です。

渡邊氏の御治療は中途で中止して頂いたとは云へ、外のお二方のお手にかゝるまで、夫の生命を保つて置いて下さつたばかりでなく、或る程度まで回復させて置いて下さいました御恩は決して忘れないつもりで居ります。

前號、前々號、及び、その外に書いたものと重複致しましたが、とにかく、此處に一ツにまとめて此の一文を御同情下さいました皆樣に捧呈してお一人々々に御返事を差し上げる代りと致します。

## 悲しき神經衰弱病患者

菊地寛氏のラジオ講演での宗教觀は「宗教はもう亡びた。現代の青年に宗教に顧れなどゝ云へばせゝ笑はれてしまう。だから、現代青年男女の導きとなるものは文藝を置いて外に何にもない」と云ふようなことでした。そして、芥川氏も亦こう云ふ文藝至上主義であり、神經衰弱病患者であつたらうと私は考へてゐます。

◯

この世の中に苦痛の量を多くするものは——その種類が何であれ——惡であり、苦痛を除去するもの乃至幸福を增進するものは善であると私は信じてゐます。

併し、この世の中に苦痛を多くするものが病人であるならば其れは本人の責任ではありませんから本人を責めるわけにはまいりません。唯、さう云ふ病人の出來たこと、及び、その病人のために苦しまされ悲しま



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

された家族の方達や友人達を御氣の毒に思ふより外に仕方がありません

○

世間には、藝術家の死を神秘化したり、美化したり、「道徳を超越した例外の死」だと云つたり、自殺をもつて「自身に下す一ッの解決」であるように云つたりする向きもありますが、併し、死は何物をも解決しないと私は信じます。殊に、芥川氏の場合には、妻子と共に生活しながら二年間も死ぬことばかり考へてゐたと云ふに至つては、何と云ふ冷酷な父、殘忍な夫であるだらうと思はないわけにはまいりません。妻及び子にとつては、たとへ、どんなに立派な藝術家であつても、併し、かくの如き冷淡な人よりも、無學文盲でも情にゆたかな人が欲しいに相違ありません。

私共女性の立場からは氏の冷酷な態度には憤慨さへも感じます。父として夫としてのかくの如き無資格者は人間としても亦ゼロであると考へないわけにはまいりません。

○

何と云つても相手が病人であつては致し方がありません。神經衰弱病はもとアメリカ病と云はれた位ひアメリカに多い病氣でしたが、今はそれが國民病と云つてもよい程我が國には此の病氣にかかつてゐる者が多い。そして、今日の我が文壇の寵兒芥川氏も、徹底的に個人主義になりきり、自己の生命をも斷たればならぬ程それ程烈しい神經衰弱病にかかつて居られたことはかへすがへすも口惜しい限りであります。

本誌臨時定價表

| | | |
|---|---|---|
| 一册 | 金十錢 | 送料五厘 |
| 六册 | 前金五十五錢 | （送料共） |
| 十二册 | 前金壹圓 | （送料共） |

▲誌代及郵税は前金の事▲御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと▲郵券代用は五厘切手にて一割增▲廣告は御照會次第御相談いたします

昭和二年八月廿三日印刷納本
昭和二年九月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

昭和二年九月一日發行　昭和二年八月二十三日納本　大正九年二月二十三日第三種郵便物認可　【定價金十錢】